

博物館学芸員課程の学びの特徴に関する考察

—東海大学の事例より—

江水是仁

1. はじめに

博物館実習は、博物館学芸員資格取得のための総仕上げといえるものである。東海大学博物館学芸員課程では、博物館概論、博物館資料論、博物館情報経営論といった座学を通して得られた知見と、博物館実習（学内実習を行う博物館実習1と学外実習を行う博物館実習2）を通じた博物館の現場での経験をするすることで、博物館学芸員資格が授与される。

2008年文部科学省生涯学習政策局社会教育課が調べた、大学の学部において学芸員の資格を取得した卒業者の進路調査の結果によると、全国の大学で約1万人もの学芸員資格取得者を輩出しているものの、学芸員として就職できたのはわずか61名¹⁾という厳しい現実がある。

しかしながら、大学における博物館学芸員課程における学びは、博物館で学芸員として就くことができないからといって、決して無駄ではない。博物館の基本的な役割—数ある「モノ」のなかから資料として後世に残す役割、資料と人との間で展開するコミュニケーションから多種多様な考え方や価値観があることを認識すること、人々に資料を通して何かを伝えるためのプレゼンテーションなど—は、現代社会において求められる能力や技能であろう。

では実際に、学生たちは博物館学芸員課程に対して何を期待し、実際に何をどのように学んだのだろうか。特に博物館概論、博物館資料論、博物館情報経営論といった座学を通じた学んだことにより、学生各自が持っている博物館のイメージや役割が、実際の博物館の現場で様々な経験をする博物館学外実習を通してどのように変わっていったのだろうか。

これらのことを明らかにすることは、博物館学芸員課程および博物館実習をより充実したものにするために不可欠である。

博物館学芸員課程での学びや、博物館実習による学びを扱った先行研究では、博物館学芸員課程を開講している大学の教員、教務課・学務課などの職員を対象として、博物館学芸員課程の現状に関して調査・分析したもの²⁾がある。そこでは学芸員資格取得に必要な科目の単位数・内訳やカリキュラムの内容、博物館実習の内容をアンケート調査より分析している。しかしあくまでの現状把握の域にとどまっている。また、博物館学芸員課程を担当する教員と博物館学芸員課程に在籍する学生、博物館職員、自治体や企業・団体の社員・職員といった異なる立場で、博物館や博物館学芸員課程に関わる（関わった）人たちに対して、学芸員資格についてどのように捉えているのかを明らかにしたもの³⁾がある。そこでは、学生に対して博物館学芸員養成課程の履修動機や博物館や学芸員の業務への理解・知識などをアンケート調査により分析している。しかし博物館学外実習を対象者とはしておらず、博物館学芸員課程での学びを完了していないので、博物館学芸員課程での学びを検証することはできない。

そこで本研究では、東海大学における博物館学芸員課程の現状を明らかにし、実習生の博物館学外実習における経験と、そこでの「学び」の特徴を明らかにし、博物館学外実習による学びの実態を把握していく。

具体的には、博物館学外実習を行う学年や実習日数、実習先の特徴などを把握し、課題や問題点を整理する。そして博物館学外実習を終えた学生の意識の変化を把握する。これらにより、各館園に実習生送りだす大学側における、事前指導や事後指導のより効果的な方法を考察する。

2. 調査方法

ここでは、東海大学湘南キャンパスに在籍し、2012年度に博物館学外実習を修了し、学芸員資格を取得した70名を対象とした博物館学外実習や博物館学芸員課程における「学び」を明らかにすることを目的とするアンケート調査を2013年1月に実施（有効回答数63）、その回答項目を分析することにより東海大学湘南キャンパスにおける博物館学芸員課程における「学び」の特徴を明らかにしていく（図1）。

なお、2011年度までの博物館学芸員課程のカリキュラムでは、現代社会の変化や博物館利用者のニーズに対応できないとの指摘や、大学の養成課程が博物館の求める学芸員の育成として必ずしも機能していないなどの指摘がなされており⁴⁾、2012年度入学生より博物館学芸員課程では、新たな科目が加わることで新しいカリキュラムに基づいている（表1）。したがって、今回の調査は、2011年度までの博物館学芸員課程のカリキュラムの総括的な意味合いも含まれている。

表1 「博物館に関する科目」新旧比較表

2011年までの入学生			2012年入学生から		
No	科目名	単位数	No	科目名	単位数
1	生涯学習概論	1単位	1	生涯学習概論	2単位
			2	博物館概論	2単位
2	博物館概論	2単位	3	博物館経営論	2単位
3	博物館経営論	1単位	4	博物館資料論	2単位
			5	博物館資料保存論	2単位
4	博物館資料論	2単位	6	博物館展示論	2単位
			7	博物館情報・メディア論	2単位
			8	博物館教育論	2単位
5	博物館情報論	1単位	9	博物館実習	3単位
6	視聴覚教育メディア論	1単位			
7	教育学概論	1単位			
8	博物館実習	3単位			
8科目 12単位			9科目 19単位		

3. 博物館学外実習の実態

ここでは、アンケート調査項目の中で、量的に分析できる項目を中心に分析を進め、その傾向を把握する。

1) 博物館学外実習修了者の属性

博物館学外実習修了者の属性を、男女別で見ると（図2）、男性が1/3、女性が2/3となっており、女性が多い。また学部学科別で見ると（図3）、学部では圧倒的に文学部が多く占めており、その値は全体の7割に及んでいる。文学部の中でも歴史学科考古学専攻が占めており、全体の2割近く占めている。また文学部歴史学科全体の割合は、全体の4割近く占めている。教養学部芸術学科全体の割合は2割、工学部建築学科の割合は2割となっている。

2013.01

学芸員課程修了生の博物館に関する調査アンケート

本アンケートは、大学における学芸員課程を学び、学芸員資格を取得した方々を対象としたアンケートです。学芸員課程を通して何を学ばれたのかを明らかにすることにより、学芸員課程のより一層の充実と、学芸員の向上などのために役立てたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

回答方法

選択式の設定は、該当する回答番号にチェック☑を入力してください。
記述式の設定は、回答セルに自由に記述してください。

A.あなた自身についてうかがいます。

1.あなたの性別、学年を教えてください。

男性 女性
3年生 4年生 院生・他

2.学部学科専攻など、あなたの所属を教えてください。

3.卒業論文のタイトルを教えてください。

4.館園実習をおこなった館園を教えてください。

5.館園実習をおこなった期間を教えてください。

日間(実日数)

6.卒業後の立場、もしくは希望する進路を、以下に該当する項目を一つだけチェック☑をしてください。

①同じ大学大学院進学・同分野 ☐	②同じ大学大学院進学・異分野 ☐
③違う大学大学院進学・同分野 ☐	④違う大学大学院進学・異分野 ☐
⑤専門学校等進学 ☐	⑥海外留学 ☐
⑦博物館(学芸員職) ☐	⑧博物館(事務職) ☐
⑨公務員(社会教育関係職) ☐	⑩公務員(その他行政職) ☐
⑪教職 ☐	⑫保育福祉職 ☐
⑬その他民間企業 ☐	⑭自営業 ☐
⑮その他・未定 ☐	

※任意回答

勤務先(大学院)名
所属予定部署(研究科)名
主な担当予定業務(専攻課程)

任期について

①任期付き
(更新上限7年)

②任期付き
(更新上限7年)

③任期なし

以上より、東海大学湘南キャンパスにおける博物館学芸員課程における博物館学外実習修了者の属性から、学芸員資格取得を目指している学生は女性が多いこと、また所属学部学科では圧倒的に文学部が多く、文学部のなかでも歴史学科が占める割合が大きいことがわかった。

2) 博物館学外実習修了者の進路先

博物館学芸員資格を取得し、卒業した後の進路先を見てみると（図4）、博物館学芸員（埋蔵文化財担当、非常勤、嘱託を含む）として進路が決まった者が3%（2名）ほど見られた。また、大学院進学や海外留学をする者が全体の1/4ほど見られた。一方で博物館学芸員と関係のない民間への就職や進路未定の者が6割以上見られた。

文部科学省が2008年9月に報告した、311大学9577名を対象とした「大学の学部において学芸員の資格を取得した卒業生の進路調査」によると⁵⁾、博物館職員が61名（0.6%）、埋蔵文化財担当の公務員が16名（0.2%）、進学が1424名（14.9%）となっていることから、東海大学の博物館学芸実習修了者は、学芸員として働きたいと強く思っている学生が多い傾向が見て取れる。

以上より、博物館学芸員課程で得られた知識や経験が、直接勤務内容に求められる分野に進路を定めている人が多い傾向がみられるものの、半数以上は直接勤務内容などにはかかわらない分野に進路を決めている。そのような人たちは生涯学習として博物館を効果的に利用し、博物館をはじめとする社会教育施設に対するよき理解者となる可能性は大きい。一方で、より博物館学芸員として就職できる可能性が高い大学院進学・海外留学者が1/4ほどみられることから、東海大学を卒業したとしても、そのような人たちに対する学芸員募集の求人情報などを提供するなどの支援が必要となってくるだろう。

3) 博物館学外実習先の種別

博物館学外実習を受け入れてくださった博物館の特徴をみると（図5）、松前記念館が半数を占めている。それ以外では、郷土・歴史系博物館が3割、芸術系博物館が約1割あり、科学系博物館、動物園の割合は小さい⁶⁾。

4) 博物館学外実習の実習日数

博物館学外実習の日数は（図6）、5日～12日にわたって見られた。平均実習日数は7.1日であった。実習日数の中で最も多かったのが、7日間で、6割を占め、7日間未満割合が2割強、8日間以上割合が1割強であった。

これらから、実習の日数が極端に少ない博物館での実習はなかった。しかし今後、実習生を受け入れてくださる博物館の事情により、実習日数が短くなる可能性も考えられる。2009年に文部科学省が発行した「博物館実習ガイドライン」によると、実習期間は5日間以上（8ページ）に明記されていることから、今後博物館学外実習を行う際、実習要項などで実習日数が5日間以上であることを確認するといった指導を徹底していくことが求められるだろう。

5) 博物館学芸員以外の取得資格

博物館学芸員課程に在籍する学生のうち、大学における必要単位を取得して取得できる資格（教員免許、図書館司書、司書教諭、社会教育主事）を取得した学生は（図7）、博物館学芸員のみ取得した割合が3/4以上いる。一方で、博物館学芸員と教員免許を取得した学生、博物館学芸員と図書館司書を取得した学生の割合も1割前後いる。なお、割合は極めて小さいものの、博物館学芸員、教員免許、図書館司書と司書教諭資格を取得した学生もいる。

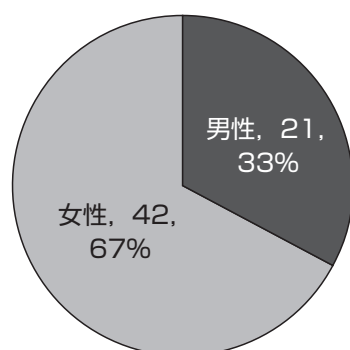


図2 館外実習修了者性別

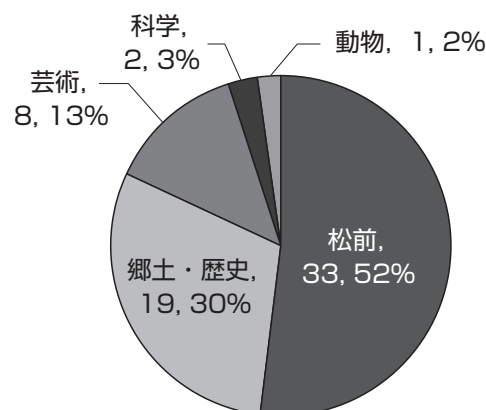


図5 館外実習修了者受入先博物館

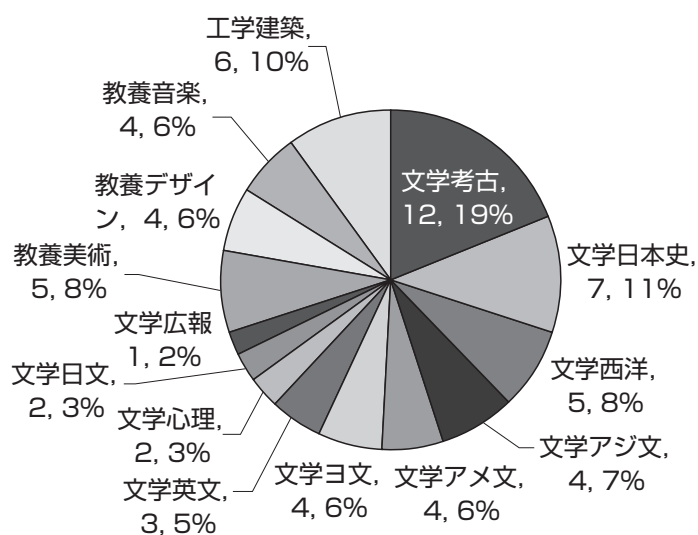


図3 館外実習修了者所属学部学科

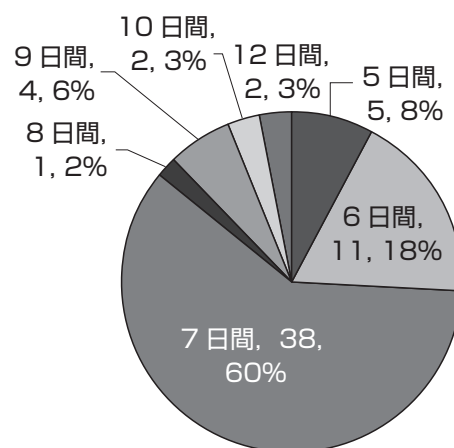


図6 館外実習日数

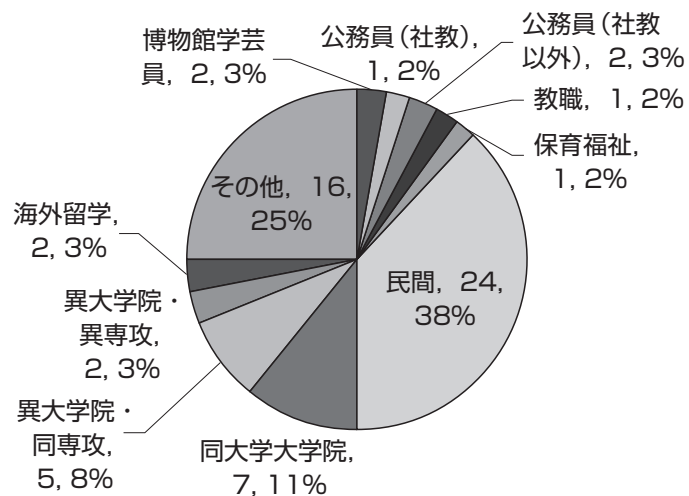


図4 館外実習修了者進路先

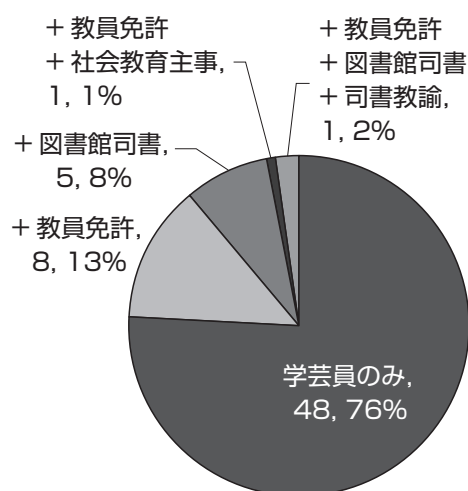


図7 資格取得状況

4. 博物館学外実習における学びの変化

ここでは、博物館学外実習により、実習生自身の変化、博物館・学芸員・博物館に対するイメージの変化などを中心として分析を進め、その傾向を把握する。

1) 博物館学外実習による実習生の変化

博物館学外実習前と後で、博物館や社会教育の役割、文化財保護や生物多様性など、博物館が扱う分野に対する興味・関心や能力（15項目）がどのように変化したのかを、3段階で評価するアンケート調査を分析した。（図8）

その結果、博物館学芸員課程に在籍する学生のうち、頻度が高まる、または興味関心が深まったと回答した項目が9割以上に達したのは、「博物館活動に関する興味関心」、「博物館学に関する興味関心」の2項目が該当し、7割以上に達したのは、「文化財保護に関する興味関心」、「地域社会に関する興味関心」、「博物館見学頻度」の3項目が該当した。一方、5割に達していない項目は、「政治に関する興味関心」、「世界情勢に関する興味関心」、「生物多様性に関する興味関心」の3項目が挙げられた。

2) 博物館学外実習による博物館に対するイメージの変化

アンケート調査項目の中で、「博物館に対するイメージの変化」を自由記述で回答した内容を分類・整理する。

まず、博物館学外実習を通して博物館に対するイメージの変化の有無を聞いたところ、63名中60名が変わったと回答した。変化した60名の理由を自由記述による回答（有効回答数60）をKJ法によるグルーピングをすると、「学芸員の役割」、「博物館業務の多様性」、「博物館業務の忙しさ・むずかしさ」、「地域との関わり合い・利用者とのコミュニケーション」、「その他」の5項目に分類できた。

「学芸員の役割」に該当する回答は21あった。代表的なものとして5点挙げると、

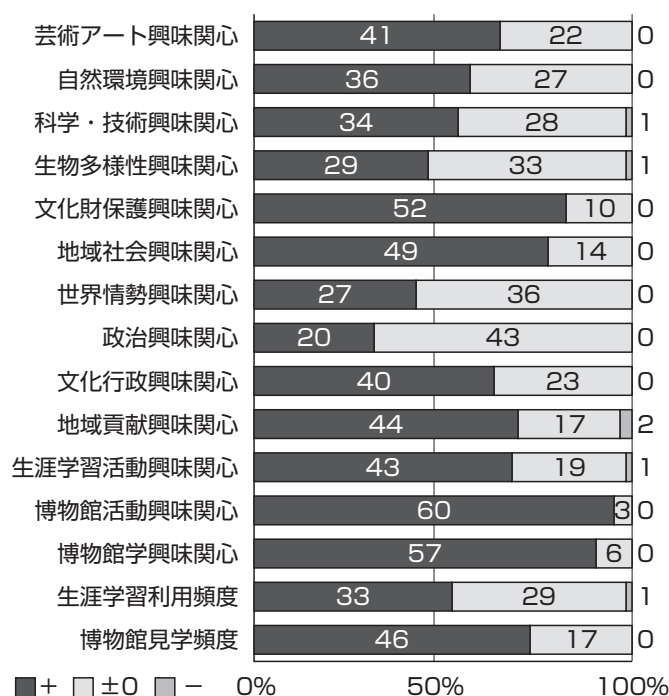


図8 館外実習による変化

- ・物静かなイメージを持っていたのですが、実習を経て様々な工夫、力仕事もしていることがわかり驚きました。
- ・展示ケースの中に資料が展示され、それが並んでいるイメージがあったが、展示一つをとっても、学芸員の工夫や配慮があるのだとわかるようになりました。
- ・勉強する前は、学芸員とはただの案内役だと思っていた。勉強後は、博物館の経営のような中心的存在とわかった。
- ・学外員は、ただの解説員ではなく、博物館を舞台にしたパフォーマーであり、製作者であり、演出家であること。
- ・「自分が学芸員ならどうするか」を気にしながら見学するようになった。

といった回答がみられた。

「博物館業務の多様性」に該当する回答は 15 あった。代表的なものとして 5 点挙げると、

- ・多種多様な博物館が存在することを知ることができました。
- ・維持やアピールなど本当に工夫を凝らさないと存続が大変なんだと思いました。
- ・博物館はそれぞれにテーマや特徴があるので多種多様であると思った。また同じ館でも企画展やイベントによってその都度変化を続けていることを知った。
- ・展示されている資料は、博物館が所蔵している資料のほんの一部であることを実感した。保管・収蔵スペースや展示スペースは本当に限られていることがわかり、その中で必要なメッセージを伝えることは大変と感じた。
- ・そんなに力を入れなくても来館してもらうことができると思っていただけに、様々なプログラムが開催され、多くの人に来館してもらえるように苦心していることに対して印象が変わった。

といった回答がみられた。

「博物館業務の忙しさ・むずかしさ」に該当する回答は 14 あった。代表的なものとして 5 点挙げると、

- ・思った以上に事務作業など、地道な作業が多く大変で、それが重要であること。
- ・さまざまなことを学び、体験したことで博物館は華やかな仕事ではないのだと知った。
- ・学芸員は、博物館業務と並行して研究も主な仕事であると思っていたが、実習で博物館業務の方が忙しいと感じたから
- ・決して専門的知識を活かす研究員としてではなく、様々な業務をこなせる「雑芸員」が多く、専門分野の教育普及を中心としながら普通の民間企業みたいな組織が形成されていたこと
- ・実習やこの 4 年間の学びを通して、人気の博物館と小さな博物館の環境格差を強く感じ、館運営の厳しさなどの面でイメージが変化した。また、そのような限られた環境に中でも様々な工夫で集客をしていることに対して素晴らしいと思うようになった。

といった回答がみられた。

「地域との関わり合い・利用者とのコミュニケーション」に該当する回答は 9 あった。代表的なものとして 5 点挙げると、

- ・博物館は遊園地のような娯楽施設だと捉えていたが、生涯学習や地域貢献など、もっと奥の深い施設であることを知った。
- ・博物館は様々な年齢層の方々に対して、とても柔軟に学ぶ場所を提供している場であることを講義や実習を通して知った。
- ・専門分野だけでなく、世界が広がるように、視野を広く持つこと。また、利用者とコミュニケーションを

取り、相互関係が生まれるように努めることを知った。

- ・学芸員という仕事の多様さや大変さを知り、ただ単に楽しく学べる場というだけでなく、地域や社会、そして人々に深く関わる場なのだと理解しました。
- ・実際に博物館学の授業を取るまでは、博物館が多くの人に利用してもらえるために様々な活動をしているとは思わなかった。博物館は単なるモノを展示しているだけの施設と考えていたが、モノを通じて、来館者のコミュニケーションを図っているのだと改めて知った。

といった回答がみられた。

これらの整理・分類から、博物館学外実習をこなすことによって博物館の実状を体感し、その体感と博物館学外実習までの学びが結びつくことで、より博物館や学芸員の役割の理解が深まっている。

3) 博物館学外実習が実習生自身に与えた変化

前項と同じように、アンケート調査項目の中で、「博物館学外実習により実習生自身に与えた変化」を自由記述で回答した内容を整理・分類する。

まず、博物館学外実習が実習生自身に与えた変化の有無を聞いたところ、63名中60名が変わったと回答した。その理由を自由記述による回答（有効回答数59）をKJ法によるグルーピングをすると、「コミュニケーション」、「自身の能力（コミュニケーション以外）・キャリア形成」、「博物館・学芸員」、「その他」の4項目に分類できた。

「コミュニケーション」に該当する回答は21あった。代表的なものとして5点挙げると、

- ・他人に分かりやすく物事を伝えることのむずかしさを知ったのは大きい。普段は学内での演習やゼミなど、ある程度同じ興味関心を持った人間が集まっているので、そういった機会がなくもっともよい経験になったと思う。
- ・コミュニケーションへの意欲が出た。一面的にモノをみない力がついた。モノから意図をくみ取る力が付いた。
- ・自分は話をするのがあまり得意ではなく、人前で話をするのが苦手である。しかし、これらの授業で学べたことは自分にとってもっと深く他人と関わろうと思えたりすることができた。
- ・物事を行う上で専門的な要素に精通しているということはもちろん、他の事にも興味を持ったり、人との関わりを大切にすることが重要なのだと改めて思いました。
- ・コミュニケーション能力の必要性、相手の立場に立って考えることの重要性といったものがとても大切であると実感し、これから気をつけていきたいと感じた。

といった回答がみられた。

「自身の能力（コミュニケーション以外）・キャリア形成」に該当する回答は21あった。代表的なものとして5点挙げると、

- ・文系・理系と別けず、総合的な視点を持ち、物事や人物を理解しようと努力するようになった。ギャラリートークを聞くとときや、展示を見るときに博物館スタッフであったなら、という考え方から聞いたり見たりするようになった。
- ・生涯学習について深く考えるようになりました。これからの人生どのように過ごすか、未来の私を見つめ直すことができるようになりました。
- ・地域に貢献することが自分や周囲のためになり、よい影響も逆に悪い影響も与えることがわかった。
- ・人は常に学び続けることができる。美術館や博物館、生涯学習論を通じて、大学を卒業してもチャンスはたくさんあると感じられるようになった。

・「自分が社会に貢献できることは何か」を考えるようになった。

といった回答がみられた。

「博物館・学芸員」に該当する回答は 12 あった。代表的なものとして 5 点挙げると、

- ・博物館に対する見方が変わった。博物館には多様な価値観が存在することを知った。博物館はただモノを並べているだけの施設ではないのです。また、学芸員は様々な知識が必要であると感じ、博物館・美術館だけでなく、科学館などにも行くようになった。
- ・博物館を見ても、展示構成や照明など、博物館側の立場でみるようになれました。
- ・博物館に訪れた際、展示と同じくらい、周りの環境にも目を向けるようになった。
- ・館に貧富の差があり、学芸員にも差が出てきているということ。
- ・様々な博物館に、より足を運ぶようになった。

といった回答がみられた。

これらの分類・整理から、博物館学外実習をこなすことによって、とりわけコミュニケーションの重要性を認識し、身に付けるべき能力であると自覚した実習生が多い。また、自分のあり方や学び続けることの重要性、自分に求められる能力のことや、博物館や学芸員に対する見方が変わったこともわかった。

5. まとめ

東海大学湘南キャンパスに在籍し、博物館学芸員課程修了者に対するアンケート調査より、彼らの博物館学芸員課程での学びの特徴を整理・分類した。その結果から、博物館学や博物館活動、文化財保護などへの興味関心が深まる、相手の立場に立って物事を考えるといった、学部学科の専攻科目だけでは学べないことを、博物館学芸員課程を通して学んでいることがわかった。

東海大学湘南キャンパスにおける博物館学芸員課程履修者は、圧倒的に文系、なかでも歴史学科の割合が非常に大きく、理工系に属する工学部建築学科の学生は少数であった。

今回は、2010 年までの博物館学芸員課程における学びを整理・分類したものである。博物館学外実習修了者から挙げた「コミュニケーション能力」や「展示構成や照明」といった項目には、2011 年度からの新しい博物館学芸員課程では、博物館教育論や博物館展示論、博物館情報・メディア論で扱われる科目である。これらの科目を学んだことで、博物館間が実習における学びにどのように関連したのかを明らかにするために、新しいカリキュラムにて博物館学芸員課程で学び、博物館学外実習修了者に対するアンケート調査を行い、比較検討していくことで、博物館学芸員課程での学びをより充実したものにするためのカリキュラム編成などを考察していくことが、今後の課題である。

本研究は、平成 24 年度全国大学博物館学講座協議会東日本部会研究助成「学部学芸員養成課程における学生と教員の『博物館及び学芸員の役割に関する学び』を検証する基礎的研究」による研究成果の一部である。アンケート調査に協力いただいた学生諸氏に感謝申し上げます。また、共同研究者である桜美林大学浜田弘明先生、文教大学井上由佳先生に厚く御礼申し上げます。

注釈

- 1) 平成 20 (2008) 年 9 月文部科学省生涯学習政策局社会教育課「大学の学部において学芸員の資格を取得した卒業者の進路調査」より
- 2) 平成 19 年度文部科学省委託事業『学芸員養成カリキュラムに係る調査研究報告書』
- 3) 平成 20 年度文部科学省委託事業『大学における学芸員養成課程及び資格取得者の意識調査報告書』

- 4) 文部科学省『これからの博物館のあり方に関する検討協力者会議「学芸員養成の充実方策について（第2次報告書）」』3ページ
- 5) 1) と同じ
- 6) ここでいう郷土・歴史系博物館は、考古資料、歴史資料、民俗資料に基づいた博物館活動を行っている博物館とした。芸術系博物館は、絵画、版画、彫刻、楽器といった資料に基づいた博物館活動を行っている博物館とした。科学系は、理化学的な原理現象や、岩石や植物、昆虫などの標本資料に基づいた博物館活動を行っている博物館とした。

参考文献

- ・大堀哲他『博物館実習』樹村房，2000年9月
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会『博物館実習マニュアル』芙蓉書房出版，2002年3月
- ・文部科学省『博物館実習ガイドライン』2009年4月
- ・山本広美・江水是仁・濱亜沙子・竹内恵「科学コミュニケーターのキャリア形成に関する科学館活動の影響－日本科学未来館の事例」日本科学教育学会年会論文集第35号，pp.321-322，2011年8月
- ・江水是仁・山本広美・竹内恵・濱亜沙子「博物館勤務経験による職員のキャリア形成に関する考察－日本科学未来館・科学コミュニケーターの事例より」博物館学雑誌第37巻第2号，pp.23-46，2012年4月
- ・大堀哲・水嶋英治編著『博物館学Ⅳ－博物館資料保存論・博物館実習論』学文社，2013年3月